



身近なフクロウ

アオバズク *Ninox scutulata* は、亜種アオバズク *N. s. japonica* が夏鳥として北海道から種子島、伊豆諸島などに渡来するほか、奄美諸島、琉球諸島には亜種リュウキュウアオバズク *N. s. totogo* が留鳥として生息します。また亜種チョウセンアオバズク *N. s. macroptera* が、北海道、本州(富山県)などに迷鳥として渡来した記録があります。ただ、例えば亜種アオバズクと亜種チョウセンアオバズクは大きさだけが違う(山階, 1941)など、これら3亜種の野外識別はできないようです(真木, 2014)。

アオバズクは平地から山地の林の樹洞などで繁殖し、香川県での繁殖時期は6月から7月で、おおむね7月下旬に巣立ちを迎えます。

主に昆虫類を捕食し、香川県高松市で残し餌を調査した結果では、スズメガ科、ヤガ科、コガネムシ科、カミキリムシ科、セミ科が93.4%を占めていました(野口, 2002)。また神奈川県の調査では、行動範囲は営巣木から150~200mの範囲であった(大庭, 1997)とのことですので、営巣木を中心として、半径200m程度に昆虫の多い環境(もしくは飛来しやすい環境)が維持されていることが、繁殖の条件と想像されます。



▲アオバズク PHOTO©遠山穎輔

減少しているアオバズクの営巣環境

大木がある林で、周囲が自然豊か。平野部では、お寺や神社などの社叢林が当てはまります。ところが近年、社叢林が伐採されたり、樹洞のある大木が折れるなどして、アオバズクの生息環境は悪化しています。

例えば2011年7月、小豆島の荒魂神社において、香川県の保存木にも指定されていたムクノキが台風により倒れ、この樹で営巣していたアオバズクの雛2羽が保護されました(山本, 私信)。

樹洞があるような大木は相当な老齢にあるため、暴風や渇水など異常気象の影響を受けやすいと考えられます。一方、新たに樹洞ができるほど育つには相当の期間が必要ですから、アオバズクが営巣できるような樹木は明らかに減少していると思われます。そのため香川県では、営巣木の減少(及び餌となる昆虫の減少)から、準絶滅危惧 (NT) に区分されています。



▲倒れたムクノキ PHOTO©山本英樹

私たちにできること

まず、アオバズクが繁殖している営巣木と、その周囲の環境を維持すること。2013年に高松市で繁殖が考えられる古木のある16神社を調査した結果、繁殖が認められたのは半分以下の5箇所にすぎませんでした(高砂,未発表)。社叢林を維持するには、地域の方の協力が不可欠です。また営巣木は県の保存木に、社叢林は県の自然記念物に指定されている場合も多く、県による積極的な保全活動も期待されます。

そして私たち野鳥観察・撮影愛好者には、「マナーを守ること」が必要です。近年、アオバズクやフクロウの繁殖場所が分かると、多くの愛好者・撮影者が訪れることがあります。その時、野鳥が逃げないことをもって「人慣れしている」「警戒していない」と言う人がいますが、営巣木という「最も安全なはずの場所」から逃げ出したり、卵や雛を放棄することは滅多にありません。単にアオバズクは限界まで我慢しているだけであり、アオバズクが逃げ出すような事態は手遅れなのです。

野鳥観察・撮影愛好者は、野鳥に接する時の見本として、一般の方にとってマナーを守って行動するモデルになるとともに、野鳥に関する正しい知識を普及し、地域全体で保護する体制をつくるお手伝いをする立場にあります。特にアオバズクのように、身近で、かつ知らないうちに減少している野鳥の場合、私たちの役割は重要ですので、ぜひ、マナーを守った行動をお願いします。

なお上記の理由から、既に知れ渡っている場所を除き、アオバズクの営巣場所は安易に公表されないよう、お願いいたします。

- ・真木広造ほか, 2014. 決定版日本の野鳥 650. 平凡社
- ・野口和恵, 2002. 香川県におけるアオバズク *Ninox scutulata* の営巣状況と食性. 香川生物 29号, 香川生物学会
- ・日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会
- ・大庭照代, 1997. アオバズク. 日本動物大百科 第4巻 鳥類Ⅱ. 平凡社
- ・山階芳麿, 1941. 日本の鳥類と其生態 第2巻. 岩波書店